

全国大会への出場に向けて ごくろうさま　そして　さようなら

平成7年8月群馬県にて

静岡市立長田南中学校

ソフトボール部

顧問　山本秀樹

この手紙を読む頃には3年生の引退が決まっていることと思う。きっと最後の瞬間直後には、僕は満足に話をまとめることができないと思うので今手紙にまとめ、明日群馬へ向かう。

3年生のみんな、長いようで短く短いようで長い2年半の間、本当にご苦労様でした。思えば君達と同じ年に長田南中へ入学し、2年半の間ずっと共に生活をしてきた。入学してすぐ、先生は部員集めからはじめた。みんなは騙されたとよく言うが(後で騙しにならないように先生も必死で努力したんだ)、思いの他たくさんの生徒が集まり嬉しく思った。運動能力調査を行い(入らなかった生徒のためにも2年半必死に努力をした)、そのときの思い出は戸塚が第2希望であったが言葉のあやで入部をしたことや、袴田が病欠のため後日どうしても入りたいと言って追調査を行いせまってきたこと等が思い出される。まあよくもこのメンバーが集まってきたものだとは今では感心させられる。

当時の3年生は市の大会で敗退した。そして残された当時の2年生2名と君達の夏休みの練習が始まった。最初はソフトボールのソの字も知らない生徒の為、ボールの握り方バットの振り方から教えて入った。小学校上がりの1年生にとっては苦しい日々の連続であったに違いなかった。朝から昼まで練習、昼食をとり勉強そして夕方まで練習、家に帰ると玄関で練習着のまま寝込んでしまう子(優子)もいた。先生も容赦なく厳しく鍛えしごいていった、もっと強くなるんだ、もっと上手になるんだと毎日念じながら夏休みを終えた。けっして最初から上手ではなかったが、人よりもガッツがあり素直に先生の教えることをスポンジのように吸収していった。そして1日も休まずに練習し泥だらけになりソフトボールに全てをかけた毎日を送った生徒達に感心した。文句を言わず、泣き言も言わずに歯を食いしばってくる姿にこれだと思うものがあつた。それに耐えることができたのは、個人の力だけでなく、みんなの力チームワークが良かったからでありまたなおさらいっそう団結は深くなった。それが後々に役にたつた。

1年時の新人戦が始まった。まずユニフォームを変えた。13年前に全国で3位になったときの物を着ることにした。そして目標は全国大会となった。長南軍団は1年生が主体ながらもしぶとい試合を行い、声は1番出ていた。河川敷で行った対観山戦では本当に熾烈な闘いであつたし、対美和戦で粘って粘って最後に勝ち越し県大会出場を決めたときの喜びは今でも思い出される。みんなで飛び上がって喜んだ事を覚えている。しかし考えてみれば、ソフトボールを始めて半年で県大会へ出場することは快挙ではあつたが、夏休みの努力が実つたと言うことであつた。

冬の練習も頑張つた。賤機中の1年生にライバル心を燃やし、素振り10万回に挑戦した。1年生ながらも見事に制覇。バットスイングに力がついた。筋トレ、外周もこなした。生徒は何がなんだかわからなかつたと思うが必死に先生に食らいついてくる姿がみれた。先生はまたひとまわり成長したと確信しうれしく思つた。

新年度となり新1年生が入部してきた。しかし大会においては、よい成績は残せなかつた。相変わらず厳しく鍛え生徒も頑張り食いついてきたが、戦力は2年生主体であり勝てなかつた。しかし生徒のやる気を見ている限り、先生には焦りはなかつた。SBS杯優勝。美和中で行われた大会、初めての優勝メダルであつた。みんなが空中に舞つた感動の一瞬であつた。相手は元教え子の静岡南中であり強い相手であつた。市中体連大会　シード校ではあつたが、大里・賤機に敗戦。にがい薬になつた事と3年生の先輩に申し訳ないと思つた。

2年目の夏の練習は、猛暑の中行われた。暑さに負けずに相変わらず元気に頑張つていた。

新人戦　市・中部・県優勝。狙つてはいたが子供達にはずいぶん助けられた、監督思いの親孝行娘達であつた。東海大会行きが決定して愛知県猪子石中学校へ遠征にいかせてもらった。負けはしたが、相手は2年連続全国制覇の強豪チーム、目標の全国が見えてきた。相変わらず黙々と努力を重ねる選手には頭が下がつた。生徒に負けないように一歩先をいけるように先生も必死で取り組んだ。なかなかしぶ

とい我慢強い子達だと思った。

2年目の冬。2回目の10万回に挑戦した。マスコットバットにも負けずに取り組みスイングスピードも増してきた。ここで打撃力をつけなければ猪子石に勝てない、全国はないと先生も必死であったが、素振り表にはみんなの努力がみられ嬉しく思い自信が湧いてきた。みんなのやる気で先生もこれはやれると確信した。相変わらず厳しい練習ではあったが、みんなは文句も泣き言も言わず、黙々と努力を重ねていった。先生はいつも怒っていたが、そこには自分達の目標があり、仲間がいて笑いがあった。仲間っていいものだなと感心させられた。

新人戦東海大会準決勝 対猪子石3-1負け。粘りに粘って最後追い上げたが負けた時、猪子石が飛び上がって喜んでいる姿を見てがっかりする。しかしくじけない、こんな事ではくじけない、この次は絶対猪子石に勝ち全国へ行くことに決めた。生徒も同じ気持ちであると信じていた。

各大会優勝した。他の人は簡単に言うが、子ども達の努力の裏付けがあって優勝できたと思う。子どもの前では甘い顔をしないで勝って兜の尾を締めると気を引き閉めてはいるが、やはり素晴らしいことであると今更思う。10大会優勝、優勝旗は6本ある。立派なものだ。しかし最後は中体連この大会で全てが決まる、苦しみ眠れない夜があるが決戦の時は容赦なく近づく。

中体連大会 全国を目標に頑張るしかない。子どもをうまく乗せながら作戦を練る。今までは本当に必死で子どもを指導してきたし、子どももつらい日々もあったことだろうが頑張っていてきたんだと思うと先生も責任重大だとプレッシャーがかかる。ましてや子ども達ならもっとの事だろう。練習では怒りまくる生徒には120%を要求してきたが、そんな子ども達が試合で力を出せなくては努力してきた子供達がかっこいい。大会でいい加減な事をする子はいない、子供達が一番試合をしやすいように、最後のまとめが出来るように自分が何をすれば良いのか心に決めた。いままで我慢をしてついで来た子供達の力を信じ共に戦い抜くことを心に刻んだ。いざ勝負！

大会中も相変わらず仲がいい、多少の摩擦もあるが子供達で解決しているようだ。徐々に調子も上がってきたが県大会2回戦三ヶ日戦では苦戦をした。1年生から3年生までがひとつになることを目標としているが、試合中ミスが出て追い込まれてやっとの事で同点延長戦に突入した。子供は焦っていた、平常心ではなかった、このまま終わりかと思っていた。とにかく落ち着かせることにしたベンチではみんながひとつになり応援していた。「大丈夫だ、元気を出せ、頑張れ、大丈夫だ」と繰り返し話しかけた。勝たせたい、勝たなくてはならないと言うプレッシャーはとても大きな物だった。しかし子供に助けられた、これで何度目だろうやっとなんか勝つことが出来たときには、みんな飛び上がって知らずに涙が流れた。しばらくして腰が抜けたようにしゃがみ込む自分に気が付いた。またひとまわり子供が大きく成長したことを確信したと同時にみんながひとつになっていたことが嬉しかった。準決勝対掛川東戦 苦戦したが勝ち東海大会出場決定ほっとした。決勝戦はのびのび戦い県大会優勝おめでとう。ひとつの山を越したがまだまだこの子達と一緒にいたい。

東海大会 念願の宿泊で1年生も大喜び初めての体験で遠足気分。1年生は本当にラッキーだなと思う。目標としていた猪子石が出場しない。嬉しいやら残念やらだがしかしとにかく目標は全国へ。勝負は春日井中部戦と思っていた、そのために前々から研究した。試合前夜のミーティングは緊迫したが、それは先生だけであった。子供は「大丈夫勝てるよ、勝って全国へ行くから」と言っている。なんだこの自信はと思いつつも子供達のたくましさや無神経さに勇気づけられ感心した。一応策は施した。試合開始後、自分が混乱していることに気が付いたがなんとか勝利！またまたみんなが飛び上がった。涙流している子もいる。まったく運の強い子達だ、いやそれだけの努力をしてきたじゃないかと思いつつも戦う子供達を誇りに思った。よくやった。全国へ行けることは嬉しかったが、もう少しこの子達といれることが嬉しくて仕方がなかった。決勝戦はだれていた引き締めるため珍しく怒っている。最後の最後になってやっとなんか逆転、天に救われたがあきらめない事を子供に教わった。東海大会優勝！

いま自分はちょっといい気になっている生徒を怒りながら大会前の練習をしている、今日でもうこのグラウンドに立つことがない生徒達と共に。長かった2年半の闘いを振り返りながら最後の決戦に挑む決意をしている。どんな結果になろうとももうこの子達と別れなければならないことはつらい。しかしそれは生徒の成長の1ステップだから仕方が無い。自分も成長することにする。悔いの無い闘いをしてこようと思う。今までのまとめとして。最後には今までの労をねぎらい「ご苦労様、ありがとう、さよ

うなら」と言って別れたいと思う。

また監督としては、いろいろな苦労があったが一番つらいことは、集団チームで活動しているので一人一人全員にその子が思っているようにさせてあげられなかったことだろう。そのために悔しがり、悲しみ、恨むこともあったと思うがチーム優先のため仕方がなかったと思ってほしい。なるべくその子の事を考えた選手起用をしようと思ってはいたができなかった事、先生も苦しんでいた事をわかってほしい。すまなかった。

最後に先生がソフトボール・部活を通して、君達に教えたかったことはほぼ教えてきたと思うし、スポンジのような子供達だからほとんど知らないうちに吸収してきたと思う。立派なものだ。思い出もたくさんできたし、仲間もたくさんできた。もう先生としては、ソフトボールを君達に教えることはないだろうから、一人の教員として君達一人一人を見守っていくことしかできない。先生がおじいちゃんになっても心の中で君達の事を思い出さう。最後に先生が君達に伝えたいことは・・・

- *生きていく時に必ずピンチがあり、それを我慢して耐え抜くと必ずチャンスが必ず来る。
- *一人でできない事もみんながひとつになり力を合わせるとすばらしいことができる。
- *人にはそれぞれの役割があり、自分の仕事をみんなのために果たすこと。
- *全国大会出場を胸に何事も自信を持って挑戦すること。やれば何でもできる。
- *仲間を大切にし思いやり、人から愛される女性になる。
- *いま自分が親に愛されていると同じように、母親として自分の子供を愛し幸せな家庭を築くこと。
- *何年かしたら必ず全員元気な姿で集まること。（ときには先生の家へ遊びに来い）

父母の会の皆さんへ

2年半の間子供さんを預かりましたが、これをもちましてお返しします。きつといままで部活中心の生活でなかなか親子で遊びに行くとかコミュニケーションが取れないことがあったと思います。（なかには、親子でソフトボールにのめり込んでいる家庭もありましたが・・・）とにかくお返しする時です。いままで私を信用していただき、家庭での精神面の子供へのフォローや、物質面・金銭面での援助をいただき心温まる協力で大変やり易く、思い通りに運営させていただき感謝しています。ありがとうございました。子供を大切にすることは、子供の今だけを考えるのではなく将来を長い眼で考えて、今を接することではないかと思います。この子達は、自分達の努力により恵まれすぎる思い出と経験と仲間達のおかげで大きく成長することができたと思います。いままで毎日接してきましたが、私の役割は終わったと思います。いままで御協力本当にありがとうございました。皆さんにとっても大切なお子さんですし、私にとってもかけがえのない生徒達です。どうかより一層可愛がって、幸せにしてあげてください。また何かお集まりの機会がありましたら誘ってください。本当にお世話になりました。さようなら。

静岡市立長田南中学校 ソフトボール部 山本秀樹